
16 紫外外部吸収スペクトルとHPLCからみた中南米産プロポリスの多様性

○松香光夫, 藤本琢憲, 中村 純
(玉川大学ミツバチ科学研究施設)

プロポリスは抗菌性, 抗腫瘍性, 免疫賦活性などが注目されているミツバチ生産物である。これまでプロポリスの主要な生産国(日本に対する輸出国)はブラジルと中国であり, 両者には一定の違いがあることを指摘してきた。最近では, 各国が競って輸出を試みるようになっており, その品質が多様化していることが予想されたので, 各所の原塊について分析を行った。

中南米各国などで生産された原塊を入手し, 99.5%エタノール抽出物について, UV吸収, TLC, HPLCなどの方法で分析した。

典型的なブラジル型プロポリスはUVスペクトル・パターンが300 nm前後で平坦になるものであった。その周辺諸国産のものではピークが短波長側に寄って292 nm付近にあり, 両側に肩があらわれる, いわゆるポプラ型が多く, 中国産のものと同通であった。

今回供試した中南米, 南アフリカなどのものには, 紫外吸収の非常に低いものや, ピークが更に短波長側に寄り, あるいはこれらの波長域に吸収のないものなど, 従来のパターン(TLCなども含めて)に当てはまらないものが見られ, 入手できるプロポリス原塊の多様化が窺われた。

これらの抽出物の生理活性はそれぞれ異なる場合があり(私信), 今後, 代替医療の研究用素材としてプロポリスを用いる時には, ブラジル産プロポリスというような曖昧なものではなく, これらの帰属を明らかにしておく必要があることに留意すべきである。